

喜怒哀楽



FEBRUARY-MARCH

2-3
Vol.90

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニュース

CONTENTS

笑顔礼讃西東

野蒜俳句会 (東京都・中央区) 2~3

樋浦知子 (東京都・国分寺市) 4

詠み人スクランブル

《新年こそ片付けたいものは何ですか?》10~11

新潟ぶらり／越後のお酒ミュージアム ぼんしゅ館 新潟驛店 12

詠み人の『リレーエッセイ』 歌人 岡田幸生 16

「なつかしい遊び・玩具」シリーズの6回目。お手玉は黒海周辺の遊牧民の間で遊ばれていたのが原型と言われ、日本では平安時代より主に女の子の遊びとして祖母から孫娘へと受け継がれています(隔世伝承遊び)。4枚の布を縫い合わせた中に小豆や大豆、数珠玉などを入れ完成します。おひとつ、おふたつ♪ 地域やご家庭によって、それぞれの胸のうちに。

富貴名譽の、道德より来たる者は、山林の中の花の如く、自からこれ徐徐繁衍す。功業より来たる者は、盆檻の中の花の如く、便ち遷徙廃興あり。若し、権力をもつて得たる者は、瓶鉢の中の花の如し。その根植えざれば、其の萎むこと、立ちて待つべし。(徳を積んで得られた富や名譽は、大自然に咲く花のように、自然で自由自在で伸びやかに茂る。対して、事業の成功で得られた

「温古知新」を皆様とともに学んでいきたいと思ひます。新たな年がスタートしましたね。本年も、「温古知新」を皆様とともに学んでいきたいと思ひます。苦心の中に、常に心を悦ばしむる趣を得る。得意の時に、便ち失意の悲しみを生ず。(苦心している時こそ、「上手く行く」という感動がある。逆に、上手く行っている時には「失敗した」というような悲しみが生まれるものだ。)常にあきらめずに向上心を持つことが大事。

「温古知新」を皆様とともに学んでいきたいと思ひます。新たな年がスタートしましたね。本年も、「温古知新」を皆様とともに学んでいきたいと思ひます。



富貴名譽は、盆栽や花壇の花のように、人の心次第で枯れたり、間引きされたりする。さらに、権力で得た富貴名譽は、花瓶の切花のように、根がなければすぐに枯れてしまふものだ。)地道に、自らの徳を積んでいくことこそが成功への正しい道と言えるでしょう。春至り時和げば、花尚一段の好色を鋪き、鳥すら且つ幾句の好音を囀る。士君子、幸に頭角を列ね、復た温飽に遇うも、好言を立て、好事を行うを思わざれば、是れ世に存ること百年なりと雖も、恰も未だ一日をも生きざるに似たり。(春が来て陽気がよくなると、花の色はより美しくなり、鳥も上手に囀るようになる。人格者でもある者が出世して、立派なことを言ったり行ったりしても、それ以上に価値のある仕事に挑戦しないようでは、まだ何もしていないようなものである。)過去の功績にこだわらず、常に新しい事・難しいことに挑戦していくことこそ価値を見出したいものですね。

富貴名譽は、盆栽や花壇の花のように、人の心次第で枯れたり、間引きされたりする。さらに、権力で得た富貴名譽は、花瓶の切花のように、根がなければすぐに枯れてしまふものだ。)地道に、自らの徳を積んでいくことこそが成功への正しい道と言えるでしょう。春至り時和げば、花尚一段の好色を鋪き、鳥すら且つ幾句の好音を囀る。士君子、幸に頭角を列ね、復た温飽に遇うも、好言を立て、好事を行うを思わざれば、是れ世に存ること百年なりと雖も、恰も未だ一日をも生きざるに似たり。(春が来て陽気がよくなると、花の色はより美しくなり、鳥も上手に囀るようになる。人格者でもある者が出世して、立派なことを言ったり行ったりしても、それ以上に価値のある仕事に挑戦しないようでは、まだ何もしていないようなものである。)過去の功績にこだわらず、常に新しい事・難しいことに挑戦していくことこそ価値を見出したいものですね。

富貴名譽は、盆栽や花壇の花のように、人の心次第で枯れたり、間引きされたりする。さらに、権力で得た富貴名譽は、花瓶の切花のように、根がなければすぐに枯れてしまふものだ。)地道に、自らの徳を積んでいくことこそが成功への正しい道と言えるでしょう。春至り時和げば、花尚一段の好色を鋪き、鳥すら且つ幾句の好音を囀る。士君子、幸に頭角を列ね、復た温飽に遇うも、好言を立て、好事を行うを思わざれば、是れ世に存ること百年なりと雖も、恰も未だ一日をも生きざるに似たり。(春が来て陽気がよくなると、花の色はより美しくなり、鳥も上手に囀るようになる。人格者でもある者が出世して、立派なことを言ったり行ったりしても、それ以上に価値のある仕事に挑戦しないようでは、まだ何もしていないようなものである。)過去の功績にこだわらず、常に新しい事・難しいことに挑戦していくことこそ価値を見出したいものですね。

苦境にもめげずに、どんどん新しいことに挑戦していきましょう。皆様にとって、素晴らしい一年となりますよう! (古川久美子)

野蒜俳句会

会長 奥名房子様

(東京都・中央区)

1月18日(水)、本年初、そして217回を数える野蒜俳句会の新年句会にお邪魔しました。新年会を兼ねた句会は、通常の会場をコレド日本橋の松江料理「皆美」に移し、華やかに行われました。

最初に会長の奥名さんより「平均年齢が上がってきていますが、どうぞお身体に気を付けて長く続けてください」とご挨拶。「銀」または「会」を読み込んだ句を含めた5句出句の10句選。新年会もあるため、事前に選句を済ませ本日は選評を述べる形式に。

10句選に驚いていると「たくさんほめることが大切で、点数は競わない。各人結社も違うのでこの方法を続けていきます」と大橋さん。大橋つながりで、学生の時に大橋巨泉さんと一緒に句会に出たという奥名さんは「青春時代だから、恋もしないのにやたら恋の句を



▲一岩さんから会長を引き継いだ奥名房子さん

詠んだりね。巨泉さんは、蕪村が妻が存命中に詠んだ「身にしむや亡き妻の櫛を闌に踏む」を引き合いに出しながら、「姉さん殺すわけにはいかないしな」などと、ブツブツ言いながら俳句を作っていた(笑)」というエピソードを紹介。

場も和らいだところで、一人ずつ10句の選評を述べる。

西年や羽撃きあうて初句会 智子

羽撃きあうの中七に、いくつになっても未来に向かう姿勢や心意気、上を見て羽ばたいて精進していきたいという気持ち表れている。活を入れられたような、新年にふさわしい句。

一岩忌納め句会の銀座かな 晃一

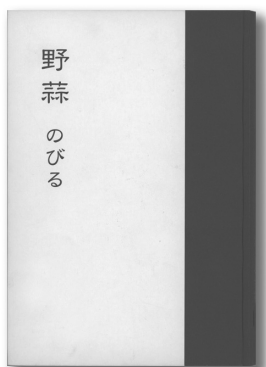
ここだけでわかる句であるが、前会長の久保一岩さんのこと。洒落者の一岩さんに銀座が合っている／一岩さんにふさわしい銀座、それが納め句会。今さらながらありがたかったなという気持ちで鑑賞した。

暮疾し冬至南瓜の甘く煮て 房子

疾しという字がまさにそのとおりで、一仕事を終えふつと気が付くともう暗くなっている。そこに「冬至南瓜を甘く煮る」と女性らしい感性をもってきたことで優しい句になった。

作者：季重なりになったので、後でなおそうと思つて忘れちゃった(笑)。

余生なほ夢のふくらむ初曆 いく子
「夢のふくらむ」という若さあふれる句を作られた作者。今年も初曆には



▲句会200回を記念した『合同句集 野蒜』

たくさんの予定が書きこまれることでしよう。余生万歳というところ／初曆の句はいくつかあったが、この句をいただいたのはまさに夢のふくらむような句だったから／類句がある気もするが、私もそのような気持ちで今年一年がんばろうと、勇気をいただいた。

銀色を塗り賀状の西光る 康雄

年賀状を上手く詠んだ／金色の方がいいと思つた読み込みが「銀」だから(笑)。「西光る」が優れている。

はや予定理めつくされて初曆 瞳

一月の予定もほぼいっぱい。自分の状況に似ていると思つた／本当にそう。以前どなたかの、しるしをつけてから歳月の流れが早い、というような句があったが、一つ予定を書き込むとあと埋まってしまうようなところがある／初曆でありながら、埋まっているという対比もユーモラス。

太箸に海山と書く父の流儀 房子

太箸に男親の空気がうまく出ている。海山は父親の号とみた／私の家では箸袋にそれぞれの名前を書き、取り箸に「海山」と書いた。
作者：父は日頃家のことは何もしない

のに、太箸となると自分の出番と言わんばかりに字を書きたがった。

※太箸(正月の膳に用いる白木の箸)に関東では「海山」、関西では「組重」と書くことが多かった。「海山」は、年神様に供えた「海の幸」「山の幸」が詰められた「おせち料理」のお下がりを家族全員でいただくという神事の名残から付けられた。

寒落暉くがね光りの神の山 勇

調子のいい格調高い句で「寒落暉」が効いている。くがねIIがね／光り輝く神々しい神の山が寒落暉によつてよく活かされている。

漱石忌猫の相にも福と貧 晃一

漱石とくれば猫。よく見れば猫の相にも福相と貧相があるというユニークな表現／福と貧がいい。やはりお正月らしい句／本当にその通りで猫の顔もいろいろ。貧の顔の猫が引き取られ可愛がられると福の相にかわる、そういうところも捉えていらつしやるんだろうと。あまりみない句。

駅伝や旧街道に三日富士 克己

よくある句だとは思つたが、三男が青学出身で必死になって応援したので(笑)／旧街道に富士を見た、という着眼点がいい。ただ「に」が説明的なので「旧街道の」とした方がいいのでは。

鶴亀の諺卒寿の年の酒 瞳

作者：この句は有隣さんにお贈りしました。
有隣：そう思いました。あとでやりますから(笑)。



▲松江料理とビールで会話ははずむ新年句会

一村をつつむどんどの煙かな 勇
 一村をつつんでしまふほどのどんどの煙、逆に言えばそれは村が小さいという事。「一村をつつむ」がいい／先日、大磯の左義長（重要無形民俗文化財）を見に行つたがものすごい炎と煙だった。田舎では目にする風景。

枯蔓の心あるごと纏れけり 美智子
 枯蔓つて、確かにそんな風に誰かをつかまえているような感じがする／いかにも未練がある、という姿に共感した。

着ぶくれて予防注射の腕探る 房子
 毎年インフルエンザの型が違うので予防注射も少しずつ違うのか、接種後にだるくなつたりかゆくなくなつたり。共感をよんだ新しみのある句。

樑ゆずりばや兄に先んじ医師となる 有隣
 「樑」という季語が効いている。樑は次の葉が成長するのを待つてから落ち

る。兄に先んじて自分が医者になつたぞ、というわけではなく、弟が成長する姿を優しく見守つている／兄弟の仲のよさを樑が表している。

父母と会ふ家の決まりの二日かな

克己

わが家はみんなが集まる日は元旦。克己さんの家は二日。それぞれのうちにいろんな決まりがあるようで、それもまたよし。

初鶏のわが世の春と鳴きにけり

いく子

おめでたいお正月らしい句と思つていただいた／高らかに宣誓するところがいく子さんらしい／私は採らなかつた。「わが世の春」という、みんながわかる慣用句を中心に添えるのはどうかと。

やはりそこは自分の言葉で詠みたい／「わが世の春」は確かに言われている言葉だが、この場合の春は季節に関係なく、人生の一番いい季節のこと。私もわが世の春と、高らかに歌い上げるような一年にしたいという意味で、大いにパワーをいただいた。

日の力借りて飛びけり冬の蝶 康雄

弱々しく、暖かい日の力を借りて飛んでいくという、冬の蝶の情景をとてもよく詠んでいる／観察眼が鋭い。

恋みくじ老いが引き当て千代の春 瞳

瞳さんはまだまだお若いから、恋みくじもできる。見ているのかご自身のことか、おめでたい千代の春だと／ぜひ、引き当てて年寄りには恋をしないと



▲俳句好きが居酒屋で即席の句会を開いたのが始まりという「野蒜俳句会」

思つている人に少し目を覚まさせてあげてください(笑)／千代の春は使つてみたいお正月の季語。

初雪や夜着で覗きし無音界 克久

「無音界」とは全く音のない世界のことと思う。現代俳句辞典で「深雪の富岳は重き無音界」という句を見つけた。

強霜の越の一番電車かな 智子

強霜と越後、そして一番電車と畳みかけてくる感じがいい／越後ではなく、岩手や富山ではいけないのか？だから採らなかつた。

垣間見し祖母の負けん気歌かるた

あきを

よく百人一首をなさつたのでしよう。勝負事に強いおばあさんを、陰からあきをさんが見ている景がおもしろい／おばあさまのいる幸せな時間を見せていただいた。

一陽来復屋上よりの吊し幕 晃一
 去年亡くなった主人とその兄。年賀状に「一陽来復」と必ず書いていたので、懐かしく思った。

★途中、会食を挟んでの句会だったが、合間の思い出話も秀逸。学校から帰ると部屋に鞆を置き「ただいま帰りました！」と祖父母に報告をする厳しい庭訓（家庭での教訓）の中で育つた話。疎開先の東北の人たちは裸で寝ていた話（素肌に掻巻や襦袢を着て）。若者に「襦袢つてわかる？」と聞いたたら「どら焼きの一種ですか？」と答えた話。脱水機もないから洗濯物から水がポタポタ滴つていた話。女正月には親戚もみんな呼んでケーキを買つて女だけで労働をねぎらつた話。集団就職の列車に乗り合わせた際、餞別の袋の文字が銭別になつていた話。家族総出で布団を打ち直した話：等々。何年経つても瑞々しく話せる、かつての日常の「コマ」の昔を語り共有できる仲間とあれば、今年もきつと新しい夢のふくらむ一年を迎えられる。今が春、おらが春、まさに初春いつぱいの野蒜俳句会だった。

(木戸敦子)



▲最後に謡曲「鶴亀」を謡う90歳の現役医師 有隣さん

樋浦知子様

(東京都・国分寺市)

『名刹広徳寺のお犬騒動記』

2015年2月『名刹広徳寺のお犬騒動記』を出版した著者の樋浦知子さまにお話を聞きしました。また本書の主人公、柴犬「黙念クン」の里親、本田智恵子さんにもご同席いただきました。



▲著者樋浦さん(左)と黙念クンの里親 本田さん

まとめました。もともと書くことは好きで、以前に『捨て犬フラワーの奇跡』という本も出版しました。ただ、動物愛護の本は悲しい内容が多く「かわいそうで読めない」という声を少なからず耳にします。手に取ってもらえなければ声は届かないので、明るく楽しく動物愛護を訴えたいと思っていました。

Q 広徳寺とのお付き合いは？

A 12年ほど前でしょうか。当時住んでいた練馬区桜台周辺を愛犬と散歩し、広徳寺脇の道を通りかかったときです。お寺の敷地内を歩く和尚様と柴犬が目にとまり、軽く会釈をしました。何度か和尚様と言葉を交わすうち、親しくさせていただくようになりました。その柴犬「黙念クン」が、お寺にきて4年ほど経ったある日、突然行方不明になりました。大変落胆された和尚様に、尋ね犬のポスターを貼ることをお勧めし、警察や清掃局、動物愛護センター等、関係諸機関と連絡をとり、打てる手はすべて打ちました。

Q その時の顛末を本に？

A 無事発見されるまでの8日間、実に多くの方が様々な場面でわが事のようにな力を尽くされていました。和尚様と黙念クンの絆はもとより、捜索にあたった周囲の方々の温かい情を描くことで動物愛護につなげたいと思い、和尚様に申しあげたところ「いいですよ、好きに書いてください」とおっしゃっていただきました。



▲柴犬「黙念クン」の逃亡・捜索を巡る心温まるドキュメンタリー

Q 動物愛護に熱心でいらっしゃるのは？

A 小学4年生のとき、いつものように父と愛犬ムクと散歩をしているとムクが首輪が抜け、一目散に走り出しました。追いかけていったその先にいたのは野犬狩りの男性たち。「キヤーン」と叫んだムクが宙に舞い、細い針金で首を絞められていました。父親が頭を下げ、引き取ったムクを抱き上げたその時、車の荷台の檻に入れられた一匹の野犬が絶望と羨望のまなざしで私たちを見ていました。理不尽に絶たれる命。どうすることもできなかったあの時のこととが原体験となっています。

Q その想いがベースにあるのですね

A 想いはあるものの、それからは書いたり消したり連続。ただ、多くの時間を費やしたので「途中で投げ出さず、いつか必ず形にしたい！」という気持ちだけは持ち続けていました。書き始めて10年、あのタイミングで夫の中学時代の恩師高橋卓二先生の勧めで喜怒哀楽書房さんと出会えたのは幸運でした。心優しき皆さまの誠心誠意のお仕事ぶり、抜群のチームワーク。そして母体である木戸製本所さんの技

術で、まさに「抱きしめたくなる本」、希望以上の本に仕上げてくださいました。住まいは東京都国分寺市ですが、通信技術が進んだ現在では、新潟との距離を感じることもなくスムーズに進みました。

Q 本を出されてからは？

A たくさんのありがたい感想をいただきました。また、この本の執筆中、黙念クンの里親、本田さんと出会いました。本田さんは、私をご自身の運転で新潟まで連れて行ってくださったり、ご親戚のいらっしゃる伊勢まで往復されたり、82歳とは思えないバイタリティーの持ち主で社交家。本のおかげで本田さんと知己を得、新たな楽しみが広がりました。漠然と本を出したいとおっしゃる方は、ぜひ喜怒哀楽書房さんへご一報されてください。そこから素敵な道がひろがります。私も心から感謝しています。

★日本海に面した新潟の寺泊で育った樋浦さん。子どもの頃は毎日海で泳ぎ、夕飯時には父親の求めに応じ、潜ってタコを捕っていたとか。朝、昼、晩、愛犬の散歩を欠かさず、大学卒業以来、ほぼ毎日水泳教室で指導にあたりながら、動物の置かれていた悲惨な状態に憤るのは、計り知れない愛情があるから。何度お会いしても全くの自然体で誠心誠意、限りなく誠実でいらっしゃる。10年の歳月をかけてこの本をまとめ上げた根気は、新潟女のしんなら強さだと思いたい。(木戸敦子)



※ 誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載は一人さま1作品、先着300名様までとさせていただきます。
 ※ 今回の投稿作品数は、248でした。
 ※ しめきり 2017年3月16日(木)まで
 ※ 作品は原稿どおりに掲載しております。

俳句

- 1 潮鳴りの他は聞こえず冬銀河
川口 襄(埼玉県)
- 2 海水浴終えて髪とく橋の上
湯浅暉子(石川県)
- 3 余白にも余白の世界初便り
津田忠彦(岡山県)
- 4 遠くなるもんべ姿の無人駅
福岡 悟(東京都)
- 5 親友はみんな年下秋桜
宮宅芳子(岡山県)
- 6 老木や枯たふりして新芽出し
内河邦久(東京都)
- 7 ポンポンと運搬船や秋深し
松尾らん(東京都)
- 8 亡くなりし父母ふと思ふ冬の星
古谷 力(東京都)
- 9 チョーク一本わが教え子に夢を描き
阿部澄江(宮城県)
- 10 人生の余白まだあり初曆
阿部徳夫(宮城県)
- 11 日記買ふ為に書店に小半日
金子よし子(新潟県)
- 12 明星を車窓に仰ぐ年の暮
佐野和彦(静岡県)
- 13 みどり児のかわいい欠伸日脚伸ぶ
中嶋清子(佐賀県)
- 14 国宝の冬空睨む鬼瓦
杉原明子(静岡県)
- 15 掌に静謐と書く山眠る
大橋恒次(新潟県)
- 16 トロツコのいにしへ辿り落葉踏む
小澤円梨(静岡県)
- 17 暁天に凜と輝く冬の星
古川正栄(千葉県)
- 18 皇族に人権ありや霜の声
阿部 至(埼玉県)
- 19 昭和史に残る汚点や終戦日
山崎吉晴(群馬県)
- 20 幾山河越えて米寿の初明り
鏡たか子(山形県)
- 21 朝時雨心は濡らさぬようにする
湯浅芳郎(岡山県)
- 22 窓開けし小鳥舞ひ散り熟柿
西條公雄(埼玉県)
- 23 電飾の輝く光り枯木立
清まさし(静岡県)
- 24 丈高き兵卒の暮冬日和
居原田連星(大阪府)
- 25 掌に冷たく重き寒卵
檜山とり子(東京都)
- 26 冬夕焼懐しき嶺のシルエット
大谷 茂(埼玉県)
- 27 折りとりて供花となしたる実千両
天野輝子(東京都)
- 28 幾星霜ともに勤労感謝の日
吉里ひとみ(東京都)
- 29 終戦日駅から消えし伝言板
高崎登喜子(東京都)
- 30 静けさや東御苑の冬桜
堅田秀子(東京都)
- 31 ぶつ叩く津軽三味線冬怒涛
三津木俊幸(千葉県)
- 32 木枯しに終着駅のなかりけり
吉村充治(埼玉県)
- 33 高野山真田三代葉喰
井上静夫(栃木県)
- 34 小春日や並ぶ野仏土手を背に
小泉和明(茨城県)
- 35 沈む日を受けて佃の小春かな
上村元義(神奈川県)
- 36 寒昂怒涛の先の島眠る
佐々木素風(新潟県)
- 37 鬼やらひ我が心にも豆を打つ
井原穂子(東京都)
- 38 賀状書くその人の事想いつ、
林 克(福島県)
- 39 かたくなに写生句つくり去年今年
鈴木清子(埼玉県)
- 40 命には潮時在るらむ初明り
有坂馨園(福島県)
- 41 山眠る昭和一桁生き残り
佐野 繁(静岡県)
- 42 数へ日や修正液を買ひにゆく
近藤薫也(千葉県)
- 43 近況も合わせてすます年賀状
長峰正晴(千葉県)
- 44 北風荒び海鳴りころげゆく砂丘
田中 昶(鳥取県)
- 45 短日の急かるる思ひ本整理
竹本美美子(新潟県)
- 46 眼鏡せしままに居眠る春炬燵
磯部 力(新潟県)
- 47 立箒ちよつと一服ひねり独楽
菅原キイ子(宮城県)
- 48 もみじ下ダンゴ宙吊り人溜まり
阿部幸子(宮城県)
- 49 冬めくや風が変えゆく海の色
村田吉雄(東京都)
- 50 失ひし領土は遠し白障子
岩村 昇(神奈川県)
- 51 鶏鳴に聴き入る齡初山河
小島岳青(新潟県)
- 52 手袋を外して触るる嬰兒の頬
小林七重(新潟県)
- 53 野鳥にも流行風邪ある憂ひかな
中島光江(埼玉県)
- 54 鯛の目を厨にひろふ日でありぬ
二瓶邦枝(埼玉県)
- 55 那覇の子に雪プレゼントしたい婆
黒岩正子(埼玉県)
- 56 旧家訪ひ先づ佗助に迎へられ
道給一恵(埼玉県)
- 57 冬旅や煩惱一つ置き所
川嶋法子(東京都)
- 58 月浴びる久女の句碑の褪せぬまま
浦橋渴雪(兵庫県)
- 59 ややふぶく消しゴムのかけすやう
安部 哲(新潟県)
- 60 散紅葉地面に灯ともしけり
水落重式(新潟県)
- 61 雲抜けて筑波の嶺の冬紅葉
鷲谷浅子(茨城県)
- 62 遠くより読経響くや寒修行
杉村美保子(岩手県)
- 63 紅葉を池面に写し秋深し
長谷部喜代子(大阪府)
- 64 あやとりを孫におしる日向かな
片山茂子(埼玉県)
- 65 香深く蜜柑の似合う少年や
白戸麻奈(東京都)

- 66 友は皆功成り名を遂げ年忘れ
岩田 信(神奈川県)
- 67 音もなく喪中葉書や鳥渡る
坪田勝秀(鹿児島県)
- 68 冬枯れの川辺に拾ふ木の釘
梶 鴻風(北海道)
- 69 新年の大地踏み締め夢湧かす
田野井一夫(栃木県)
- 70 紅葉の木々をすい込む水面かな
井田由利子(宮城県)
- 71 初湯して夫婦二人の昼の酒
佐藤儀雄(北海道)
- 72 木洩れ日の風にゆらめく草紅葉
金子範子(高知県)
- 73 恙なく祝ふお屠蘇のふたりかな
中田文子(大阪府)
- 74 故郷出て五十有余の冬帽子
有田俊一(埼玉県)
- 75 しぐるるや明日売る牛の顔を拭く
岡村君枝(茨城県)
- 76 遠き日の思ひの中の炬燵かな
青木ケン子(埼玉県)
- 77 初明り九十歳の未知を踏む
堀木和子(大阪府)
- 78 散るもみじ残るもみじにある覚悟
岩崎政弘(岡山県)
- 79 迷ひ人さがす有線冬の暮
寺内 侖(埼玉県)
- 80 冬磯や竈閉じたる海女の小屋
白川 博(新潟県)
- 81 無役のまま榎櫃の落ちにけり
緑川禎男(埼玉県)
- 82 初暦踏み出す一步めぐりけり
重原 昇(新潟県)
- 83 繚乱のつぼみの未来姫椿
堀田寿美子(北海道)
- 84 凝然と河原に一羽冬の鷺
杉江典子(岩手県)
- 85 夜勤明け落葉一枚ポケットに
大塚徳子(埼玉県)
- 86 野良猫のよどみし瞳冬日向
服部八重子(東京都)
- 87 真実か霜夜の知らせあの人が
藤井春三(埼玉県)
- 88 悴みし手に葬送の香を焚く
野木宗信(奈良県)
- 89 耀きてなお耀きて銀杏散り
井上氣海(広島県)
- 90 朝景色見わたし空に冬の虹
田中恵美子(山形県)
- 91 風邪の子の空色多きぬり絵かな
一瀬正子(埼玉県)
- 92 山眠る地震の崩落しかと抱き
日名子春実(群馬県)
- 93 混沌と世界は変はる去年今年
岡野智恵子(埼玉県)
- 94 落葉掃く手を休めては越し方を
木村 舂(山形県)
- 95 新しきダンスステップ春傘寿
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 96 思ひ出し笑ひのやうに帰り花
関山恵一(神奈川県)
- 97 浦波や漁網で囲ふ冬菜畑
石井一枝(埼玉県)
- 98 色褪せしポスト佇む去年今年
大阿久雅子(埼玉県)
- 99 引くことも足すことも無き寒茜
池田 岬(埼玉県)
- 100 母の忌に思いおこすよ林檎剝く
五味田幸夫(東京都)
- 101 アルプスのハイジは優しクリスマス
中山日出子(大阪府)
- 102 喪のはがき心痛める師走かな
神 一男(静岡県)
- 103 書き初めは平和の二字の大書かな
松前邦広(千葉県)
- 104 冬苺すこしかたむくほこらかな
北野耕兵(千葉県)
- 105 否定せず肯定もせずに春障子
大場岬月(長野県)
- 106 無印が長生きのコツ冬の虫
望月哲土(東京都)
- 107 ゆらゆらとなにを夢見て浮寝鳥
伊藤久枝(埼玉県)
- 108 恋札にまたもお手付き歌留多とり
今井勝子(新潟県)
- 109 冬耕のゆるやかに操る農の影
駒場京子(神奈川県)
- 110 敗荷水平線に無無無言
五十嵐陸博(新潟県)
- 111 一軒に七つの名札萩の家
本庄準也(埼玉県)
- 112 窓ごしに大木につどうシジウカラ
森 俊彦(神奈川県)
- 113 大旦那神巡りに汗にじむ
田野倉訓郎(東京都)
- 114 被曝地の生きる七種いとおしむ
菅井文男(新潟県)
- 115 老木の薬息吹き九十年
油谷博子(兵庫県)
- 116 去年今年自立の現在を慈しむ
村山徳英(埼玉県)
- 117 年末のさびしくないか子のメール
富樫和子(山形県)
- 118 着ぶくれて味見ばかりの漬物屋
大窪美代子(大阪府)
- 119 わだつみの声切れ切れに十二月
邑橋節夫(兵庫県)
- 120 片減りの硯の海に寒の水
椋本望生(大阪府)
- 121 投句欄知人の句ありちろろ鳴く
本間ミネ(新潟県)
- 122 ゆつたりと夢にひたりし初湯かな
本間 進(新潟県)
- 123 大いなる初夢も無く朝の餅
中川義彦(新潟県)
- 124 母の背を越えし兄弟初詣
浅野信廣(宮城県)
- 125 春日背に店番のばば話し好き
浅海和代(東京都)
- 126 居酒屋の昭和にかえる掘火燵
中村康浩(福岡県)
- 127 老いの手に酒わなわなと初日の出
青木日出男(群馬県)
- 128 春浅し大山めぐる影あわく
齊藤安弘(神奈川県)
- 129 人の世の永久の別れや虎落笛
柴田恵美子(北海道)
- 130 運転免許証返上山笑ふ
高垣勝代(大阪府)
- 131 冬満月おとぎの国へ誘なへり
石川郁子(埼玉県)
- 132 初夢や幼き我子と今の吾
沖 惇子(大阪府)
- 133 有り様を語りて午後の水仙花
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 短歌
- 134 ひっそりと落葉散りしく無言館戦没
学徒の絵の鎮まれり
関原幸子(東京都)
- 135 金ぴかの月に魅せられ我もまた宇宙
の中に輝き生きる
峯岸信子(東京都)

- 136 病室の窓に冬日の柔かく遙かに富士を眺めをりたり 松田重信(埼玉県)
- 137 太陽を真正面にし午後三時この幸せを何に譬へむ 今井忠一(埼玉県)
- 138 風乗つて越後へ終の糧求む墓より本は七十路の歌 早坂絃司(北海道)
- 139 教師まで菌づけで呼び差別する原発事故は人災なるぞ 黒澤正行(福島県)
- 140 五時起床気になるテレビまず点けて日露会談トラブル続く 高須 孝(愛知県)
- 141 今朝の夢三途の川の向う岸懐かしい顔並び手を振る 北澤実夫(東京都)
- 142 年の暮れ喪中ハガキの悲しけり両親よりも先に逝く友 坂元正憲(東京都)
- 143 天も地も裂けるこの世を妻と生きあわれふたりの頬を重ねる 渡邊 清(宮城県)
- 144 脚立建て剪定してます八十才いつまで出来る老婆の庭師 佐伯セツ子(香川県)
- 145 三人の妻を看取りし医師祖父は白衣に念珠を納めて逝きぬ 寒川靖子(香川県)
- 146 「どんちゃん」と渾名の恩師死に給ふ眩しき遺影微笑みてゐる 小林春雪(新潟県)
- 147 治り難き心臓病となりし友農具扱うはもう無理と言う 桑原謙一(群馬県)
- 148 年の暮手入れ終りて街路樹はよそおひ新たに新春を待つ 高橋登志子(新潟県)

- 149 冬仕度キングベッドで寝る犬よ夜の徘徊治まり安堵 大橋絵代(千葉県)
- 150 大鳥居額縁にして見渡せば街なみの上雪の高山 土屋喜雄(山梨県)
- 151 八十を過ぎて免許の更新に一人で来たかと問う係官 田中恵恵(新潟県)
- 152 柚子浮かべ風邪ひく勿れと我に言ふ短歌を詠みし冬至の夕べ 久本にい地(岡山県)
- 153 子どもらの虐待の報読むたびに憶良の歌の何と貴し 山田楽山(埼玉県)
- 154 傘寿まで五年を切った我が人生無駄にはすまい一秒一分も 濱崎祥子(鹿児島県)
- 155 酉騒ぐあけの明星オリオンの空鶏口となるも午後となるな 合田浩子(茨城県)
- 156 苦しき悲しみも持つ友なれど俳句によせる心いかにと 林 玉子(長野県)
- 157 年明けて結婚するよと気づかう子煮つまる鍋は嬉し淋しと 小川 暘(大阪府)
- 158 待ちわびる祈り届かぬ母のもと舞いおりて来よ正夢の鶴 岩崎令子(大阪府)
- 159 コーヒーの泡に思い出重なりてつばやいてみる因数分解 若月理依子(新潟県)
- 160 紅と黄色ライトアップに浮かびたる楷の木紅葉夜空に映ゆる 西山知子(岡山県)
- 161 我家の前方高く伊香保あり初春祝う光あふれて 島田實貴男(群馬県)
- 162 正月の駅伝大会上州路亡き友の走り思い出すなり 新井 賢(埼玉県)

- 163 里人の寄りて神事の御火渉り声かけ合ふも初春らしき 安田芳江(茨城県)
- 164 砂浜に打ち寄せらるるも人形に愛されし日の記憶があれば 若林卓宣(三重県)
- 川柳**
- 165 本年も鬼笑わせるスケジュール 山口静一(東京都)
- 166 原発は安いだつたとんでもない 原 崇雄(埼玉県)
- 167 赤飯で祝いたくなる今日の無事 長谷川庄二郎(千葉県)
- 168 振り出しに戻ればそこに夢がある 鈴木義雄(福島県)
- 169 もう買うわ主婦の意地すて楽オセチ 奥那於子(大阪府)
- 170 やましくもない行先を口ごもる 丸山芳夫(東京都)
- 171 門松も養殖ものとは知らざりき 石尾曠師朗(東京都)
- 172 古い二人同じ話題の繰り返し 守屋高雄(岩手県)
- 173 全身で喜怒哀楽の赤ん坊 橋本世紀男(東京都)
- 174 二人離れたがいに無言スマホほけ 石原 岳(群馬県)
- 175 ものさしを代えると広い青い空 木村洋一(新潟県)
- 176 爛酒で心の鬼を眠らせる 小石澤英夫(東京都)
- 177 どうしよう途方に暮れて墓参り 細川光子(栃木県)
- 178 森小池丸川揃ふ起工式 濱田イサオ(福岡県)

- 179 婿が買うダイソン見るやわしも族 久保寿雄(北海道)
- 180 赤い糸切れることなく米寿待つ 大久保アヤ子(東京都)
- 181 トランプのきり方次第明と暗 宇都木安子(東京都)
- 182 色恋に机上の策は野暮ですよ 関本 守(新潟県)
- 183 旧暦の節気が新暦に迫る 木村誠一(神奈川県)
- 184 肩書がとれば皆んなおっさんだ 山崎一嘉(愛媛県)
- 185 西年の初鶏高く鳴きにけり 成田節子(山形県)
- 186 障子ごしひとりの部屋へ春めいて 小山恵美子(大阪府)
- 187 いじめ悲しまだ復興の薄明かり 目黒豊光(福島県)
- 188 見つかった時はいらなくなつていた 山口千鶴子(東京都)
- 189 二の腕も優しくゆれるフラダンス 和崎治人(山口県)
- 190 べらんめえルーツをたどる江戸言葉 近藤富夫(東京都)
- 191 「富士」の銘ありシューズ洗いの自尊心 川瀬幸子(千葉県)
- フォトイック**
- 192 しやぼん玉ほろ酔ひに舞ひ年の酒 松田重信(埼玉県)
- 193 プーさんより水玉のぼるおのが春 津田忠彦(岡山県)
- 194 天を衝く雨情と兎らの風光る 福岡 悟(東京都)
- 195 ボクだってホラ出来るだろシャボン玉 長谷川庄二郎(千葉県)

- 196 ハッピーだ今年は恋人探ししよう
阿部澄江(宮城県)
- 197 淋しいよやっぱり森が恋しいよ
阿部徳夫(宮城県)
- 198 熊君も御満悦なりシャボン玉
佐野和彦(静岡県)
- 199 しゃぼん玉上手に吹いて孫の笑み
関原幸子(東京都)
- 200 くまの子はハチミツシャボン僕が好き
奥那於子(大阪府)
- 201 部屋中に夢広がるやしやぼん玉
小澤円梨(静岡県)
- 202 ぬいぐるみの熊は秘芸の石鹸玉
山崎吉晴(群馬県)
- 203 ボクだつて独りぼつちは淋しいよ
鏡たか子(山形県)
- 204 厚さうな毛皮があれば冬はラク
安木沢修風(新潟県)

こちらの写真を見て
詠んでいただきました。



(写真提供：中川 肇さん)

- 205 大変だクッキー変るシャボン玉
清まさじ(静岡県)
- 206 シャボン玉抱くも飾るも縫いぐるみ
居原田連星(大阪府)
- 207 しゃぼん玉宇宙へ飛んで星になる
橋本世紀男(東京都)
- 208 ぼつちやまも大きくなられ椅子もら
い
石原 岳(群馬県)
- 209 子の夢をのせて未来へしやぼん玉
高崎登喜子(東京都)
- 210 くまモンの夢見る眼クリスマス
三津木俊幸(千葉県)
- 211 ファンタジックな水玉あふれ春近し
井原毬子(東京都)
- 212 ファンタジーで終る一年喜怒哀楽
有田裕子(北海道)
- 213 冬眠の熊よ浮世は楽しけり
近藤薫也(千葉県)
- 214 ひたすらにシャボンとばしてペアアッ
プ
宇都木安子(東京都)
- 215 ぬいぐるみ涼し子供を吸ひ寄せり
千代田俳徒(東京都)
- 216 くまさんもシャボン玉が好きである
阿部幸子(宮城県)
- 217 奔放でゐて愛される熊の芸
岩村 昇(神奈川県)
- 218 シャボン玉来る年のみち占ひぬ
黒岩正子(埼玉県)
- 219 プーさんよ師走正月のんきじやのう
佐伯セツ子(香川県)
- 220 シャボン玉くまの子びつくり冬ベンチ
水落重武(新潟県)
- 221 小春日や優雅に暮すぬいぐるみ
片山茂子(埼玉県)
- 222 いつまでも眠らず遊ぶ熊の子
梶 鴻風(北海道)
- 223 短日や予期せぬことの多かりき
井田由利子(宮城県)
- 224 初夢やまことしやかな宇宙旅
佐藤儀雄(北海道)
- 225 寂しさへこの子相手にしゃべつてる
小山恵美子(大阪府)
- 226 おやつなどどうでもいいのシャボン玉
目黒豊光(福島県)
- 227 くまさんのしゃぼん玉飛びひなたほ
こ
高橋登志子(新潟県)
- 228 たべすぎて直ぐに立つこと出来ませ
ん
岩崎政弘(岡山県)
- 229 飛びまわるシャボン玉と戯れる
和崎治人(山口県)
- 230 どこからかおもちゃのチャチャチャ
しゃぼん玉
寺内 侑(埼玉県)
- 231 捉われていても心は叫びたい
久本に地(岡山県)
- 232 飛ばすより気泡に乗りたや縫ぐるみ
藤井春三(埼玉県)
- 233 僕だつていつかは干支に加えてよ
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 234 吾もまた遊んでみたき玩具かな
山田栗山(埼玉県)
- 235 子と吹けば吾も童心シャボン玉
大阿久雅子(埼玉県)
- 236 くまモンの夢と一緒にシャボン玉
小林恵子(大阪府)
- 237 たわむれの風に酔ひたりしゃぼん玉
神 一男(静岡県)
- 238 しゃぼん玉ジントの曲が流れる
濱崎祥子(鹿児島県)
- 239 雨情熊眠る子も起きるしゃぼん玉
合田浩子(茨城県)
- 240 夢露国メダル獲得虹と消ゆ
本庄準也(埼玉県)

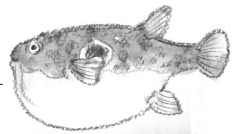
●俳句・川柳募集!!



(写真提供：中川 肇さん)

右の写真から、自由にイメージし五七五(俳句)か川柳で表現してください。1枚の写真から想起される世界は無限大です。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユニークなイック(一句)をお待ちしております!

- 241 夢の中人生いつも見てる夢
菅井文男(新潟県)
- 242 写真撮るシャボンと遊ぶアディベア
富樫和子(山形県)
- 243 ふりむかぬお客様にも笑顔みせ
岩崎令子(大阪府)
- 244 初夢や宇宙旅行へふたりして
杉浦俊雄(静岡県)
- 245 おべつかを使ひ熊となる幫間
椋本望生(大阪府)
- 246 座つてばかりたまには僕も飛びたい
よ
安田芳江(茨城県)
- 247 みがかれたガラス戸に付くしゃぼん
玉
青木日出男(群馬県)
- 248 春めきて新入りたちの夢語る
齊藤安弘(神奈川県)



心に残った作品

※今回、昨年一年間で読者のみなさまからジャンルを問わず、一番票の多かった方を年間大賞として発表します。

＊年間大賞(平成28年)

69 遠き日を引き寄せて書く賀状かな

大谷 茂(埼玉県)



大谷 茂様

〈受賞のことば〉

拙い句を評価して頂き恐縮しております。定年後に始めた俳句も既に二十余年余りになりますが、昨秋計らずも米寿を迎えることができました。曲り形にも句作を続けてきたことへのご褒美かと感謝しているところです。

年賀状は六十年程書いて参りましたが、今は現役時代の三割程の枚数で一抔のさびしさを感しながら、遠き日のことなどを回想しながらしみじみと書き上げることにしています。この心胸を作為なく詠んでみた一句です。

具象俳句(もの俳句)を指向していながら加齢とともに心象句に偏る傾向にあることを省みている昨今です。

これからも生ある限り、終点のなき俳句を詠みつけていきたいと思っております。

〈選んだ理由〉

・「引き寄せて書く」から旧知との遠き日を鮮やかに回想しようとする作者の姿勢が浮かぶ 邑橋節夫(兵庫県)・詠みのなかに何があるのか。読み手に想像が膨らむ処がよい 近藤薫也(千葉県)

・遠き日日を思い出している生活になり大谷様と同じ気持ちの今日です 黒岩正子(埼玉県)・賀状だけのつながりのこの頃。一年ぶりに遠い日をなつかしむ…。私のように川嶋法子(東京都)・改めて読み直しながら書く賀状は本当になつかしい遠い日を思い出させます。共感します 寺内 侑(埼玉県)・今、年賀状を書いています。喪中ハガキが6枚も。それぞれの方の思い出を引き寄せ、感慨深いです。「遠き日を引き寄せ」がピッタリです 奥那於子(大阪府)・今賀状を書き乍ら私もこの方の気持ちに共鳴いたしました 片山茂子(埼玉県)・半世紀以上の長いやりとりを引き寄せる楽しさ 駒場京子(神奈川県)・毎年特に今年は同感の思いです 池田 岬(埼玉県) ほか

12月号の心に残った作品

◎短歌部門大賞

22 「君の名は。」に辿る月日はほろ苦く 共に老いたり目の前の君

小川 暘(大阪府)

〈選んだ理由〉

・「君の名は」と尋ねし青春!君と共に老いたいと幸せいっぱい過ごしたではない

か「君」と。感情表現が旨い 坂元正憲(東京都)・むかし遊んだ男が、今の自分の人生に幸せを感じて作りそうな歌ではないか 早坂紘司(北海道)・互いの関係をユニークに表現し老いのよさを詠っている 山田良男(埼玉県)・作品と同じ。他に言うことはないみたい。目の前の妻も八十六才となる 青木日出男(群馬県) ほか

◎川柳部門大賞

55 新橋で喋ると街の声になる

丸山芳夫(東京都)

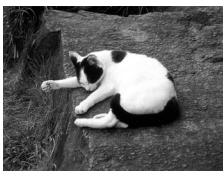
〈選んだ理由〉

・テレビ局の手抜きです。サラリーマンの声は新橋、老人の声は巣鴨 木村洋一(新潟県)・なるほどと合点しました 成田節子(山形県)・何故かテレビのインタビューに新橋駅の機関車口が出ることも多い 小石澤英夫(東京都)・自分も過去三回ほど経験あり 西條公雄(埼玉県)・新橋が微妙で面白い。テレビのインタビューであろうが俳句的にそのものとしてよみたい 安部 哲(新潟県)

◎俳句部門大賞

12月号の俳句大賞は年間大賞に選ばれた大谷 茂様の作品 69 遠き日を引寄せて書く賀状かな でした。

◎フォトイック大賞



187 猫姫様小春日受けてお平らに

津田忠彦(岡山県)

〈選んだ理由〉

・「猫姫様」が気に入りました 松尾らん(東京都)・猫姫様とはかわいらしい。よくいった 白戸麻奈(東京都)

◎他にも

5 早朝に化粧ととのえにつこりと鏡の 我に「若いね」と云う 峯岸信子(東京都)

10 心とは柔らかきもの止めようよ心が 折れたなんて言い方 小林七重(新潟県)

37 政治家の舌の二枚はましなほう 橋本世紀男(東京都)

40 すらすらと漢字が読める母百歳 大久保アヤ子(東京都)

58 心の憂さ投げ込んでゐる落葉焚 井原毬子(東京都)

61 旧村の名を持つ銘酒秋祭 津田忠彦(岡山県)

67 年寄の自覚のなくて敬老日 高崎登喜子(東京都)

98 コスモスや寡黙なれども聞き上手 寺内 侑(埼玉県)

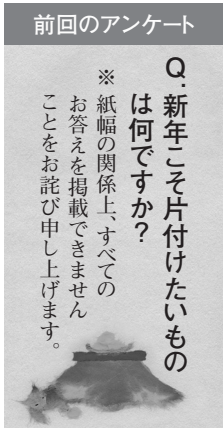
109 絶筆となりし賀状を読み返す 阿部徳夫(宮城県)

134 長き夜や膝に広がる母の衣 一瀬正子(埼玉県)

150 蓮根掘る老まだ若き力瘤 村山徳英(埼玉県)

249 振られたのなぐさめよりもほっといて 中村恵子(大阪府)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします!



前回のアンケート

Q: 新年こそ片付けたいものは何ですか?
※紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できません。ことをお詫び申し上げます。

★本

- ・積みあげた本 峯岸信子(東京都)
- ・八十五年の書棚。学生時代からの物 内河邦久(東京都)
- ・本を2,500冊捨て書庫を渡廊下にししましたが、まだまだあり捨てられない 高須 孝(愛知県)
- ・絵本や民話の本など子供さんのいる所へ送ったりしています 水落重武(新潟県)
- ・毎年思いながら片付けられない書齋。足の踏み場もない 梶 鴻風(北海道)
- ・蔵書が多くなりコンパクトに整理したい 土屋喜雄(山梨県)
- ・読まなくなった本、料理の本等抽出の整理などしたいです 中田文子(大阪府)
- ・趣味で学んでいる本の数々 高橋登志子(新潟県)
- ・川柳の本と自分史 岩崎政弘(岡山県)
- ・火野葦平の作品を「武士道精神」で読み解くことに着手 中村康浩(福岡県)など

★趣味、作品

- ・陶芸作品。味ある食器、花器は作れず駄作ばかり。置き場所も無く、もう限界 奥那於子(大阪府)
- ・一年分の作り溜めた俳句の整理と推敲、静かなお正月の一日が一番はかどります 高崎登喜子(東京都)
- ・卒業した篆刻、書道の石材や道具類と廃棄作品など 木村誠一(神奈川県)
- ・ためている原稿。シュレッダーにかけたのがあまりに多いので困っている 寒川靖子(香川県)
- ・パッチワークを仕上げる。今年こそは仕上げます 濱崎祥子(鹿児島県)など
- ★写真
 - ・アルバムに編集すること。日時、場所を記入するなど 居原田連星(大阪府)
 - ・古い写真を見る度に思い出多くなかなか捨てられません 坂元正憲(東京都)
 - ・子供や孫の小さい頃のアルバム 池田 岬(埼玉県)
 - ・夫、子供たち、孫との生活成長がそのまま 小川 暘(大阪府)
 - ・15、16才くらいの時から撮りまくったネガを如何するか 田野倉訓郎(東京都)
 - ・未整理の旅行の写真 本間 進(新潟県)など

★身体のこと

- ・腰の痛み 吉里ひとみ(東京都)
- ・家族の病!病気を治して元気に一年を過ごしたい 大橋絵代(千葉県)
- ・水虫と理解、共存 五十嵐睦博(新潟県)
- ・腹回りの余分な脂肪ですね!! 中川義彦(新潟県)
- ・足の痛み。医者に行かねば 安田芳江(茨城県)など
- ★心のこと
 - ・積年の心の疵 松田重信(埼玉県)
 - ・心の蟠り 福岡 悟(東京都)
 - ・心の迷い 阿部徳夫(宮城県)
 - ・雑念 白戸麻奈(東京都)
 - ・いまだに燻り続けている諸々の雑念 白川 博(新潟県)
 - ・心の蟠りやいやな思いで 久本にい地(岡山県)



★服

- ・洋服は、バザーやリサイクル等に少しずつ出し、着物は孫達にあげたりしています 関原幸子(東京都)
- ・ネクタイ。息子達にあげたいが若者には不人気 上村元義(神奈川県)

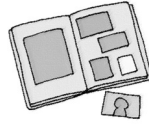
★切抜き

- ・一番スペースのムダなのは何年たつても着ない服 長峰正晴(千葉県)
- ・着れない服は処分出来ず又新しいのを買うので山づみです 大久保アヤ子(東京都)
- ・もつたいないと残していた衣類を今年こそ処分しましょう 黒岩正子(埼玉県)
- ・着物は踊りをする人、手芸する人にもらつてもらおう 佐伯セツ子(香川県)
- ・外出が少なくなつたので一度も手を通さない洋服を着てから処分したい 鷲谷浅子(茨城県)
- ・ズボン。腹回りがきついです 有田俊一(埼玉県)
- ・退職後30年、もう着る機会少ない洋服さらば 藤井春三(埼玉県)
- ・着れないものが倉庫に眠っているのでフリマに出店したい!! 和崎治人(山口県)
- ★切抜き
 - ・蔵書と20年間の新聞切り抜き 湯浅芳郎(岡山県)
 - ・新聞のスクラップ。振り返って見ると殆ど読んでいない 石原 岳(群馬県)
 - ・新聞や本からの切抜き。箱から出して整理したい 松尾正一(岩手県)
- ★書類・パンフレット
 - ・まずはいらぬ書類から 小山恵美子(大阪府)

A Q U E S T I O N N A I R E

・吟行先で集めたマップや書類の整理
本庄準也(埼玉県)
・年末には色々の書類旧年中になるものを片づけて捨てます

・大窪美代子(大阪府)
・長年、大事に保管している各種の書類、綴類
邑橋節夫(兵庫県)
・旅のパンフレットで、パンパンにふくらんだファイルの整理
小林恵子(大阪府)
・その時の種々な思い出がよみがえり要・不要に振り分けるのに時間がかかりました元へ?
岩崎令子(大阪府)



★手紙
机の周辺と手紙類

・渡邊 清(宮城県)
・未だちゃんと見ていない封書
有田裕子(北海道)
・孫からもらった手紙など
本間ミネ(新潟県)

★日記

・小学五年から60年書いてきました。宝物と思っていました。が今現在が総て捨てます。
松尾らん(東京都)
・小四から結婚するまで書き続けていた日記帳。読み返した後、今年こそ処分します
小林七重(新潟県)
・記録類(句会・句集・日記・映画・演劇の鑑賞記等)
齊藤安弘(神奈川県)

★年賀状

・10年間分の年賀状と名入りの書類から
松前邦広(千葉県)

・なんと平成前の物も有ってびっくり。シュレッダーの時間小半日に及んだ
川瀬幸子(千葉県)

★食べ物

・お節料理です。しかし食べ過ぎには気を付けます
久保寿雄(北海道)
・冷蔵庫の残り物
堀木和子(大阪府)

★食器類

・食器類は夫婦二人には多過ぎます
大阿久雅子(埼玉県)
・重箱の仕舞つてある所にある食器、漆器、花入れなど
中山日出子(大阪府)

★捨てられない

・いずれも思い出の品々達です。で片付けるか否かに迷っています
大谷 茂(埼玉県)
・終活に向けて身辺整理と思いつながら思い出多く捨てられません
堀田寿美子(北海道)
・どれも思い出があり捨てられない。年が明けたら考えます
有島和子(東京都)

★なし

・今はコンパクトに生活しているので特にな
天野輝(東京都)
・その都度片付けているので改めてなし
細川光子(栃木県)

★その他

・年をとり使うことができなくなった道具類
鈴木義雄(福島県)
・すり切れたレコード
阿部澄江(宮城県)

・疫病神にとりつかれなかなか片付かない、さて思案なげ首
津田忠彦(岡山県)

・趣味で集めた「切手」どうするか
長谷川庄二郎(千葉県)

・今までの人生。サラリーマン付き合
早坂絃司(北海道)

・壊れたパソコン
古川正栄(千葉県)

・物置に残してある古道具
山崎吉晴(群馬県)

・一人で旧宅に棲み、何からやっつてよい手がつけられない
黒澤正行(福島県)

・古着、古い靴 死して四年の夫です。四年前の主人のもの
清まさじ(静岡県)

・死後のため「覚書き」をまとめた
守屋高雄(岩手県)

・思い出をまとめておきたい
三津木俊幸(千葉県)

・カミさんの愚痴
木村洋一(新潟県)

・いつか使う時がと溜めてしまった物、物
宇都木安子(東京都)

・押入れの中の物(思い出や心の中を片付けないといけないかも)
岩田 信(神奈川県)

・退職時に持ち帰った段ボール類
坪田勝秀(鹿児島県)

・壊れた植木鉢
田野井一夫(栃木県)

・倉の中、何か掘出物が眠っていないかな
桑原謙一(群馬県)

・あり過ぎてどこから手をついたらよいのか
目黒豊光(福島県)

・古い額(絵とか色紙)を捨てるわけにもいかず「福祉バンク」にでも出そうかと思っています
杉江典子(岩手県)

・いつの間にか増えてしまった家具
岡村君枝(茨城県)

・捨てられない物が整理も出来ずゴミ屋敷です
重原 昇(新潟県)

・他人さまには興味ないものでも自分にとつては何らかの意味を持つものを、その筋に寄贈すること
仁藤ひろじ(埼玉県)

・車の免許証返納し代わりに便利なスマートフォンを買ってみたいなど昨今感じていますが
神 一男(静岡県)

・全国からの奇集、徳利、ぐい呑みの選別整理
北野耕兵(千葉県)

・貯金通帳 わずかばかり、しかも長年放置の通帳を一つにまとめる。自身自身でわずれ気味。すべての役職、恥多い「生涯現役」から脱却
大場艸月(長野県)

・机等の抽斗の中
望月哲土(東京都)

・3・11以来手つかずだった園庭の樹木、植栽。暮のうち片付けられたので。新年は心の中をフォローカスします
合田浩子(茨城県)

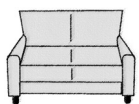
・植木鉢(雑草が自生している)
杉浦俊雄(静岡県)

・身辺整理。いろいろな物を片付けていきたい
伊東ハル子(神奈川県)

・押入の奥にある段ボール箱
高垣勝代(大阪府)

・履かなくなった靴を片付けたい
石川郁子(埼玉県)

・大きな家具
沖 惇子(大阪府)



12-1月号へお寄せいただいたお声の一部をご紹介します！
皆様のご感想、はげまし、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀楽」
がつくられていきます。心より感謝申し上げます。

- ・「菜根譚」です。豊かな時代だからこそ、このような文章に出会って人生の道しるべとしたい。
- ・とねりこ句会の記事は主宰の評と素晴らしい句ばかりですごく勉強になり良かったです。
- ・句集を上梓された岡田様のお話、私の心もスカッと晴れました。好奇心、知識欲、実行力の上に計画性（スゴッ!!）増々ご活躍下さい。
- ・フォトイックの推敲は難しく反面楽しみでもあります。
- ・詠み人スクランブル 冬の装い…皆様のそれぞれの帽子、ブーツ等を参考に私も楽しんでみたくなりました。
- ・新潟ぶらり「県立鳥屋野公園」。新潟県内に居ながら鳥屋野潟に白鳥が四千羽も飛来するとは知らなかった。
- ・「新潟の女性たち」近現代の日本文化に貢献した多くの女性がいた事を知りました。
- ・「食楽句楽」大家族の中で取り合い分け合った昭和のすき焼き風景が懐かしく思い出されました。
- ・果報は寝て待党…雪舟えまさんのエッセー現代人のフィーリングおもしろかったです。早速『小説新潮』十二月号買いました。
- ・木戸さんのお父さんに寄り添うさりげない言葉に心打たれました。早い回復を願っています。
- ・福袋のような Vol.89。どの頁、いろいろなコーナーもすべて〈心〉のなせることと感慨無量です。
- ・紀元前から独楽があったことはびっくり！

※今号へのお声も、ぜひお寄せください！

新潟ぶらり

半越後のお酒ミュージアム

ぼんしゅ館 新潟驛店

新潟県内すべての酒蔵の地酒を利き酒できる「唼き酒番所」が、新潟駅舎内にある。

蔵風の入口。のれんをくぐる前から、日本酒のいい香りが漂ってくる。中を覗くと別世界。おちよこを持つてうろうろする人が何人もいて、壁一面に貼られた地酒のラベルを見比べ「どれにしようかな」と楽しそう。壁が自動販売機のようになっており、飲みたいお酒のところにコインをセットしボタンを押すと飲めるというしくみ。コインは五百円で五枚もらえ、おちよこ（二勺くらい）を貸し出してもらえる。つまり、五種のお酒を楽しめるということ。

新潟には九十をこえる酒蔵があり、ラベルには酒蔵の名前、住所、大体の場所を示す地図、酒の種類、日本酒度、酸度、アルコール度数、精米歩合、甘辛、使用米、目利きのお勧めコメントが記されている。これだけ多くの種類があると迷ってしまうが、スタッフの方は「こんな酒がのみたい等なんでも聞いてくださいね」ととっても熱心。「酒蔵がここに勢揃いすることで日本酒の魅力と醍醐味を知っていただきたかった」とのメッセージが、心からの願いであることを感じた。



住／新潟市中央区花園 1-96-47 CoCoLo 西館 3階

新潟県醸造試験場の場長をされていた渡邊健一氏が「新にいがた地酒王国」（二〇〇三年、新潟日報事業社）に寄せた「新潟清酒の特徴」によれば、「新潟の酒の特徴は、「淡麗な酒質」であり、淡麗とは柔らかくて味わい深く後味がきれいで残らない様子をいう。淡麗な酒はみな同じと唱える人がいるが、それは間違いで、淡麗な中にも、それぞれの主張を持つ新潟清酒を味わいながらその酒の個性を発見してほしい」とのこと（要約筆者）。確かに、五種のお酒はそれぞれに違う味だった。

新潟淡麗をつくる条件のひとつに、冬の寒さと雪があるという。穏やかな発酵をもたらす寒さ、空気をきれいにする雪。いま、この真っ白な寒さのなかで美味しい酒がつくられている。

（菅真理子）

にいがた
文化の記憶館
便り(12)

俳優座をつくった青山杉作

秋岡 啓子

「文学座」、「劇団民藝」と並んで日本を代表する新劇の劇団「俳優座」は、今年の2月で創立74年目を迎えます。仲代達矢、加藤剛、菅井きん、市原悦子など、テレビでも活躍する多くの俳優を輩出しています。新潟県内でもあまり知られていませんが、この劇団の創設者の一人である青山杉作（1889～1956年）は、新潟県新発田市出身です。

浄土真宗東本願寺派の寺院、紫雲寺の長男として生まれました。幼少期から本をよく読み、旧制新発田中学（現新発田高）時代には特に詩を愛読したといえます。1909（明治42）年、早稲田大学に進み、坪内逍遙のシェイクスピアの講義に感銘を受けました。当時、日本の演劇界は、旧劇といわれる歌舞伎に対して、西洋戯曲の翻訳劇を中心にした近代的な新劇がブームでした。初期の新劇運動では、早稲田の坪内逍遙、島村抱月らによる「文芸協会」と、劇作家・小山内薫と歌舞伎俳優・市川左團次による「自由劇場」がその中心的な役割を担っていました。

演劇の魅力に取りつかれ、在学中に俳優活動を始めた青山は、やがて寺を継ぐことを拒んで実家から勘当され、大学を中退してしまいます。その後、小山内薫

らが主宰する新劇のメッカ・築地小劇場の同人となり、俳優としてだけでなく演出家としても活躍。映画「姿三四郎」や「雨月物語」に出演する一方、1928（昭和3）年に設立された松竹少女歌劇団や、41（昭和16）年設立のNHK放送劇団でも指導を行いました。

1944（昭和19）年2月、千田是也や東野英治郎ら10人の同人で「俳優座」を設立。戦後の文化的混乱期を経て、常に演劇の正道を目指してきました。54（昭和29）年には創立10周年事業として、新劇のための劇場「俳優座劇場」を東京都港区六本木に開場しました。青山は日本の演劇界発展に尽くした功績が認められ、55（昭和30）年に紫綬褒章を贈られました。

にいがた文化の記憶館では、2月10日（金）から3月26日（日）まで企画展示「青山杉作と俳優座」を開催します。それに合わせて、現在、俳優座演劇研究所所長を務める川口浩三氏による講演会を、3月10日（金）に新潟市中央区礎町のクロスパルにいがたで行います。俳優座には「劇団・劇場・研究所」と三位一体をなすシステムがあり、今も演劇人を基礎から養成しています。川口氏にはそのあたりもお話しいただく予定ですので、興味をお持ちの方はぜひご参加ください（事前申し込み制で先着順です。詳細は当館にお問い合わせください）。



▲青山杉作(左)と千田是也
(完成間近の俳優座劇場屋上にて)

【展覧会情報】

企画展示「青山杉作と俳優座」

- 会 期：2月10日（金）～3月26日（日）
- 休館日：月曜日（3/20は開館）、2月14日（火）、3月21日（火）

「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

寄鍋はお熱いのが好き

岩田 桂

寄鍋は冬の代表的な季語です。ネットにその寄鍋を詠んだ一句を見つけたました。

寄鍋や氣になる人の箸にふれ 佐藤文字

いきなり何と熱い作品であろうか。このような句を詠める作者とはどのような方であろうか。お若い方であろう。そんなかんやで、原稿のペンが一時臨時停止です(本当)。

しかし邪念を払って、本題の寄鍋の原稿に取り掛かからねばなりません。佐藤文字氏の一句に一端をくじかれましたが、振り切つて前に進めようと思えます。寄鍋の正体を考察するためです。

寄鍋やいけない恋と知りながら

ご存知でしょうが、寄鍋は人気No.1のメニューです。日本人を魅了しながら、その地位に君臨し続けています。思うにその人気の理由は名前にあるではないだろうか。この名付け親はすごい人です。文化勲章が与えられても当然の奇才とみるべきです。おそらく発祥の江戸時代の人でしょう。

寄鍋つて、何か、つい、寄つてすがりつきたくなる引力がありますよね。

万有引力があるつて感じます。

それを裏付けるための「寄」に関わる言葉を集めてみました。

するとあるは、あるは。日本人がこれほどまでに「寄」に憧れているとは。

ごとと挙げてみますよ、いいですか。

「寄せ書き、寄席、寄合傘、寄せ植え、寄せ豆腐、口寄せ、引き寄せ、寄せ集め、寄り切り、寄せ詰め、身を寄せる、思いを寄せる、膝を寄せる、



お取り寄せ、鹿寄せ、花寄せ」など「寄せ」を名乗る軍団は日本にたむろして存在しています。「人間はひとりでは生きてゆけない」という根底部分の支えが「寄る」にあるとみたら合点がいきます。

寄鍋やこころ許せる友あらば

前書きが長くなりました。早速寄鍋の現場に取り入ることにします。

まずは寄鍋に関するまじめなお話です。寄鍋とは地域の様々な具を使い、特に主体とすべきものがない鍋物を意味します。牛肉と豚肉は入れないのが原則です。鶏肉は可です。

いわば新鮮魚介や野菜がたっぷり集合した、寄合入させてもいいのが、この鍋のエライところです。冷蔵庫の掃除も受け入れてくれます。だから主婦にはありがたい始末屋さんなのです。

残り物集ふ寄鍋湯気たてる

煮汁は塩としょうゆだけでのスープが、コクのあるうま味たっぷりのスープに変身します。ダシは不用です。ここから、いざ、現場検証の寄鍋の作業に入ります。

まずは前処理をやります。このひと手間がポイントです。近場のお魚センターから仕入れた海老、鱈、烏賊などをさつと湯通して臭みを抜きます。これを手抜きしたら怒るけんねえ。

野菜は椎茸、白菜、葱、人参、大根などをざく切りにしておきます。あとは煮汁を張った土鍋に整然と並べ入れ、煮立てるだけです。

しばらくすると卓上のガスコンロの土鍋舞台がクツクツと笑いだします。のんびりとお湯に浸かっていた具材が一堂に、それぞれの表情で笑いはじめます。

しかも寄鍋の具材には主人公となる役者は不在です。皆が役者であり脇役であり、それぞれの持ち味の仕事を任されています。学歴も貧富の差も上下関係もなく、仲良く混浴に浸かっているのが寄鍋の基本です。

この混浴の光景が実にのどかで安心感を与えてく

れます。呉越同舟つて感じます。民主主義の国つて感じます。眺めるだけでも楽しくなってくる。

しばらくすると海老は赤ら顔にのぼせ上がり、蛤はバクリと大きな口を開けます。さあ、来いという構えです。数種の野菜の脇役もそわそわと落ち着かなくなり、水面を浮き沈みし出します。スープのうま味をどんどん吸収しながら、いつでもおいでと鍋の中で箸のお誘いを待ちます。

そうしてこれが実に奇妙なのですが、安心感が少しずつわきあがってきます。この鍋の中を覗き込みながら、やさしい視線を送ります。やさしい気持ちになれます。

寄鍋の頃はかかる視線かな

みんな仲良しそうだなあ。喧嘩はしていないかな。鱈くん、そんなに沈んでばかりいると、箸で拉致されないぞ、もっと水面に顔をだして。そこ葱さん、もっとシヤキツとしなさいよ。などと声をかける楽しみやよるこびに、我を忘れて夢中になります。

さて、もういいか、と眉目をうごかす瞬がやつてきます。一挙に誘いをかけて具材に拉致を仕掛けます。鍋に腰湯、足湯、肩湯、水没している具材を本能の赴くままに引き上げ、口を迎えに行かせます。一心不乱です。ただし余り熱いと舌が文句を言ってくるから要注意です。

こうなると寄鍋を食べているというより、寄鍋と遊んでいる狂気に陥ります。寄鍋の別名が「遊び鍋」と昔から言われていますが、まさに実感です。

海老の次はイカを拉致しよう。いや白菜がふつくとらとっているから、先ず確保しておこう。スープを肴にビールを飲んでみるか。意外にマッチしてビールがおいしくなるかも知れないぞ。

さらに湯気に向こうに付け睫毛のキミでも居てくれたら、それを掴んで食べてしまおうか。本当だよ。こんな幸福感のある料理って外にはないな、ないよなあー。そうか、もう鍋の底に着いちゃったのかい。それにしても寄鍋の熱いことよ。あっちちち……。

寄鍋や湯気に向かうの付け睫毛

生きてきて一番うれしい日

過日、浅野正美様より、うれしいお便りをいただきました。浅野様は「句集発行など面映ゆい」と二の足を踏むお母様を励まし『走馬燈』刊行に漕ぎつけました。子どもたちに囲まれた出版記念会で、お母様の杉山マサ子様は「生きてきて一番うれしい日」と仰ったとのこと。お手紙は「これからも一人でも多くの方の本づくりにご尽力されるよう期待しております」と締めくくられていました。ご本人はもとより、周りの方も幸せにする本づくり、力を尽くしていきます！杉山様、浅野様ありがとうございます。



▲20年の集大成『走馬燈』をまとめられた杉山マサ子様

第4回 井月忌の集い

漂白の俳人、長野県伊那市出身の井上井月^{せいげつ}を顕彰する「第4回井月忌の集い」が開催されます。今回は俳句大会に加え、伊那の映画上映、連句体験も予定されています。

◎日 時：2017年3月4日(土) 午後1時受付

◎会 場：アルカディア市ヶ谷〈私学会館〉

◎出句料：二句一組 1,500円

(投句の有無に関わらず)

◎懇親会：午後5時半より 13人の選者を囲んで

◎問い合わせ：井月顕彰会東京事務局

03-3341-6975

「喜怒哀楽」をご紹介します

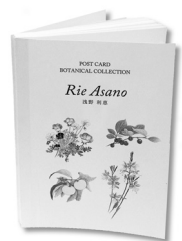
文芸を楽しむ方々の活力の源を目ざし発行している本誌。この紙面が、日本全国のより多くの方々と切磋琢磨し、交流できる「広場」となれば、こんなにうれしいことはありません。「喜怒哀楽」のチラシを同封いたしましたので、ぜひ、お知り合いの方にご紹介ください。

みんなのエッセイ わたしの母 締切延長!

なかなかハードルが高いと思われる自費出版。多くの方に、自費出版の楽しみを味わっていただきたい!と「わたしの母」のエッセイを募集中です。締切は1月31日でしたが「もう少し延長してほしい」という声を受け、2月20日(月)を締切としました。母の日に向けて制作予定ですので、まだの方はぜひご執筆ください。文字数 300字以内 締切 2017年2月20日(月) 投稿料 お一人 3000円 ご自身の書いた作品が本になり(他の方の作品と共に)、2冊届きます。 ※ご一報いただけましたら資料をお送りいたします。

ポストカード販売しています

本号(90号)に同封したポストカードは「ビオラ」。春夏秋冬32枚の絵柄が一冊になったポストカードブック(1500円)、各季節8枚(500円)のいずれも取り扱っております。必要分の切手を同封のうえ、封書にてお送りください。



Q. 新年こそ片付けたいものは何ですか?

※ 新年の書初めを手に! この一文字にかける思いは当社HP スタッフ紹介でお読みください!

木戸敦子



クローゼットの9割がほぼ着ない服で占められ1割のスペースのまた1割つまり1%を着ては洗ってのヘビーユーズ類が占める。これっていったい何〜?いつか着るを今年こそ斬る!

古川久美子



まずは、いるものといらないものに分けるところから始めなければ……。すぐに物を買ってしまう癖も改めねばならない、とは、思うのですが……。

菅真理子



プリントやパンフレットの類が相当ある。そして収納スペースは満杯なのに、着ていく服がない。どれも整理しようとする「こんなこと勉強したなあ」とか「あの着た服だ」となって時間が過ぎていく……。

木伏美恵



子どもの学校のプリント、公共料金の明細などいつもファイリングだけして、どんどんたまっていく一方。思いきって捨てるぞー!!

上村真智子



お金とか、貴金属とか、ブランド物のバッグとか、毛皮とか、男とか…言ってみたいが、箆笥や押し入れの中にあるのは着古した洋服に紙袋や何が入っているかわからない段ボール箱など。

金子ゆり子



もう何から始めようかと思うほど整理したいことがある。写真類はたぶん整理したので良いと思いますが、洋服類や台所の使わない鍋・食器等々。それに思いっきり捨てなくてはならない寝具類や洋服。

石山由希子



まず台所。リビングキッチンとは言え、本棚、ゲーム機、ペンやメモ、裁縫道具、薬箱が。子どもの通学鞆まであります。台所なのに…そこから何とかしたい。

吉田瞳



スマホやカメラのデータ画像をプリントして整理したい! 長年外付ハードに移して保存しているだけで何とかしたいと思いつつできていない今日この頃(汗)

山田千秋



1月から飼い始めた猫ちゃんの写真。すぐさま虜になってしまい300枚は撮ったであろう写真。早いところベストショットせて50枚までに整理しませんとあとで大変になります(笑)



デリーの月

岡田幸生

今回から3回にわたってご執筆いただきますのは自由律俳句の岡田幸生さま。
1月2日の夜のほんの一場面を、優美で自由なメロディを奏できるように言葉にのせる。心地よく、揺り動かされてください。

年が明けるといつも思い出すことがある。もう四半世紀も前の話だ。

成田をたつた飛行機がデリーへ着いたのは、一月二日の夜だった。インドへのはじめての一人旅である。ニューデリーのメインバザールに宿を決め、食事のために外へ出た。外はたたくさんの人でにぎわっていた。

その言葉は、通りを歩いている僕に不意にきた。それは僕の胸を爽やかにした。そして、それが僕一人に発せられたことがわかって、さらに爽やかになった。

それは、あけましておめでとうございます、という女の声である。言葉が包んでいる心をそのまま映して、音楽のようだった。ネイティブの発音だということだ。

日本人なのだ。日本語が流暢なのは当然だろう。しかし母国語に触れることを予期していなかった僕の耳には、なにか不思議に美しい音楽のように響いたのである。

あけましておめでとうございます——雑踏の奥に若い女が立っている。周囲に溶けて気づかなかつたのは、女がサリーを着ていたからだ。あざやかな青だった。女のそばに、髪をうしろで束ねた若い男が寄り添っている。

僕は同じ言葉を返した。

原宿あたりの少女が、たつたいまサリーに着替えました、というふうな小さい顔だ。笑っている。いまどきの女優の多くは短髪のファニーフェイスだろうから、そんな中の一人だといつても通りそうな雰囲気がある。笑顔からこぼれる歯

が白い。そばにいる男も、気さくに笑っている。

僕は二人に、インドに着いたばかりだと言った。「日本で年越しのそばと正月のお雑煮を食べてきたばかりです」

横浜を出て半年になるという二人は、遠い目になった。三人で食事をするようになった。地元の人でにぎわっている食堂だった。道路まで張り出した席である。

食後にチャイがきた。小さい素焼きの器に熱くおさまっている。女はそれをかかげて、新しい旅人と月に乾杯、と言った。

空を見た。並木の上、白い月がまぎれようもなかった。僕はなぜか美しい勲章のように思った。

「たぶん、きょうが十三夜です」と女は言った。「私は月の空の私を見て」

意味はわからないものの、僕はなにか快い酔いのようなものを感じた。「なんですか、それ？ いいですね」

「オノ・ヨーコが、そう言ったんだそうです。あたしじゃありません、残念ながら」と女は言った。

「インドへ行くジョン・レノンに、そう言ったそうです」と男は言った。

「ああ、それはジョン・レノンでも、ひとたまりもなかったでしょうね」

カレーもピリヤニもチャパティも、しみじみとおいしかった。指の先が黄色くなった。二人と握手をして別れ、美しい月をおおぎながら宿へ戻った。

●プロフィール

1962年 富山県氷見市生まれ。

2000年 「短歌研究」臨時増刊「うたう」作品賞入選。句集に『無伴奏』（私家版）。

2017.2-3. vol.90 (2017年2月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

喜怒哀楽書房



株式会社ミュージズ・コーポレーション

☎ 0120-819-395 Facebookもチェック



e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

編集後記

先日「人は生まれた時から生涯を生き抜く知恵と言葉を宿して生まれてくる。言葉を贈るということは人間だけが成しうる、最も豊かで高貴なこと」という話を聞いた。果たしてこの紙面が、お読みくださる方に豊かさをもたらしているのだろうか。日常は「これでいいの?」と思うことであふれている。でも、最後はバカボンのパパよろしく「これでいいのだ!」と思うしかない。「人生に答えはない、あるのは問いだけ」とはこういうことなのだろう。されば、せめて少しでも手応えを得られるような毎日をおくりたいと新しい年に思う。次号また、よりよい紙面をめざして!(木戸敦子)